

# 令和4年度

## 総務企画部の方針書

部名	総務企画部
部長名	村田 清和

### 1. 部の使命(ありたい姿)

新しい流れを探り・取り入れながら、全体調整役としての使命を担い『幸せな地域社会』を実現する。	
担当政策	政策7:横手を思い、市民の想いを実現させる創造的な行政経営を進めます
担当施策	3-3:災害に強いまちづくりの推進      5-3:市民が利用しやすい公共交通の充実 6-3:情報を共有する環境の整備      7-1:住民ニーズに対応した成果重視の行政運営の確立 7-3:戦略的・計画的な人材育成と能力開発の充実

### 2. 部の抱える課題(現状)

◆文書管理の刷新、電子決裁の実行      ◆複数媒体の合理的運営による情報発信、秘書業務のスムーズな遂行 ◆人事評価手法の再検討、業務の省力化手法の検討 ◆「大型公共施設建設」と「十文字一小エリア開発」の計画推進 ◆行政経営マネジメントの推進(行政評価、BPR、外部化)&行政DX ◆災害に対する予防的措置と実践的対応、CFMの脆弱性払拭      ◆人口減少対策
---

### 3. 今年度の『スローガン』

◇ チーム力の最大化＝知力の一体化と集積！『個人→係→課(室)→部(→横手市役所)』 ◇ 『戦略的思考』と『柔軟な発想・取り組み』！ ◇ 『もの』は三つの目で見ると！鷹の目(マクロ)、蟻の目(ミクロ)、魚の目(トレンド)
--

### 4. 今年度の方針

◇ 事業の進捗管理を確実に行う。 ◇ 常に人口減少に歯止めをかけることを意識した事業の計画と展開に取り組む。 ◇ 新しい流れ、社会情勢を敏感にキャッチする。→ 新たな施策へ。 ◇ 横手市役所総合力向上のため、的確かつ効果的な後方支援を行う。【全庁マネジメント】
---

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	新しい取り組み・事業がスケジュール通り進捗している。
	取組内容	○大型公共施設建設計画における各種事業 ○文書管理・電子決裁の実施(新システム導入) ○CFM機器更新及び冗長化の実施(放送事故ゼロへ)
(2)	実現したい成果	行革視点による「行政DX」「業務改革(BPR)」「業務スクラップ」等の実施
	取組内容	○電子申請の検討実施等、市民等の利便性向上が期待できるDXの検討と取り組み。 ○全庁的な視点での各種業務・作業のデジタル化を促し、検討し、実施する。 ○業務&作業プロセスの見直し・再構築。【BPR実行】→スクラッププロセス・スクラップ事業の洗い出し。【省力化、デジタル化、事業の廃止・縮小・統廃合】。
(3)	実現したい成果	平常時・災害時、明確な意図を持って情報を取り扱うことが出来る
	取組内容	○情報発信方法・手段・内容の常時確認 → Society5.0目線、新HP運用、市報発行、横手情報センターの運用、アプリ活用、NHKデータ放送活用&周知、FM不感地帯解消への取り組み ○全庁的な情報リテラシーの向上 → 庁内啓蒙活動 ○情報取得方法の多様化 → 国・県からの情報、補助金・交付金・新制度等の情報取得

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

重点取組(1): 標記3事業の進捗については、全体的に適正レベルで進んでいる。  
重点取組(2): 鋭意取り組んではいるものの今一つ進み具合が良くない。特に行政手続きの電子化(電子申請)については、担当課が「自課で取り組むべき業務」との認識が薄いように思われる。一層のプッシュが必要。各種作業・業務のデジタル化及びBPRの実行についても進みが良くない。  
重点取組(3): 情報発信等については概ね順調。但し、FM不感地帯解消については、アンテナ設置の合意世帯が少なく解消に向かってはと言いが難い。全庁的な情報リテラシー向上についても取り組みはもう一つの状況。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

重点取組(1): 大型公共施設事業費の考え方については大きな課題ではあるが方向性は見えている。よって、そのストーリーをしっかりと構成した上で展開できるように取り組む。CFM機器更新については、輸入機器の入荷に左右される状況もあり、今後を見守る必要がある。  
重点取組(2): 電子申請については庁内プロジェクトを立ち上げて進めていく。電子申請の数を増やす、作成&チェック作業により職員の育成も兼ねる、を目的とする。他の項目については強制的に進めることも検討する必要がある、と考える。  
重点取組(3): 情報発信等は現状を維持しつつ更に上へ。情報リテラシー向上は方法を具体的に考える必要がある。不感地帯解消では現取り組みでは手詰まりの感があるため、他の手段での情報伝達も考慮して考える(必ずしもCFMにこだわらない形もあることとして)。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

重点取組(1): 新体育館・新市民会館の基本設計が完了し、概算事業費も提示できた。昨今の世界情勢などの影響により、事業費が当初見込みよりアップしてしまったことは残念だったが、種々の財源を確保出来たことで実現可能と判断できるものとなった。実施計画～建設に向かうR5年度へしっかり受け渡すことが出来た。安定運用を目指したCFMの冗長化は、一時心配された機器の納入遅れ等も回避出来、順調に事業が終了。事故のない放送を期待する。電子決裁、文書については一部実行率の悪い部署はあるものの概ね実施できている。財務についてはR5年4月を実施目標にしていたが、リスク回避のため半年延期とした。

重点取組(2): DX関連は徐々に展開してきているものの、なかなか実施スピードが上がらない。申請書オンライン化についても加速させる必要がある。将来に向けての必要性、現状のやり方でやれている感、今やらなくても感など、今一度これらをしっかり考えてもらい全庁で取り組んで行く必要がある。

重点取組(3): 情報伝達については適宜改善しつつ取り組んでいる。これが完成形！と言えるものはないはずなので、常に世情に合わせて、手段を先取りして実施していく姿勢で臨みたい。情報リテラシーの向上については、残念ながらまだまだ発展途上の感がある。引き続き啓蒙活動にて全体の底上げを狙っていくこととする。